



# 耕学一如

アグリビジネス学科長 露崎 浩



今年度は大変な天候でした。8月の猛暑。「これは秋田ではない」と、心のなかで何度もつぶやきました。大潟村の8月の平均気温は29・1℃(平年値24・0℃)、秋田市のそれらは30・0℃(25・0℃)でした。雨も降りました。私の家から大平川(秋田市)へは60

歩ほどです。7月の大雨のときには、川面はぐんぐんと高まり、家の前の側溝へは川の水が逆流し…。ド迫力でした。秋田市だけでなく八郎湖(残存湖)にそそぐ馬場目川でも洪水が発生しました。このような天候を体感すると、秋田はもとより日本そして世界の環境

と人々の生活の将来がいつそう心配となります。さて、皆さんが学んだ大潟キャンパスの玄関に「耕学一如(こうがくいちにょ)」と刻まれた石碑があることをご存じでしょうか。私の後ろに写っているのが、その石碑です。一如の意味は「一体であり、互いに影響し合って発展していくこと」です。例えば、「耕」を農業、「学」を農学とすれば、「農業と農学が一体となり発展していくこと」となります。あるいは「耕」を実践、「学」を座学とすれば、座学で学び・考えたことを実践してみる。その実践のなかで見出された疑問を座学で学び・考える、つまり、「座学と実践を行き来しながら学びを深めていくこと」になります。

この碑文は、大潟キャンパス(秋田県立農業短期大学)開学当時の知事・小畑勇二郎氏の書です。小畑氏は秋田県の教育に力を注いだことで知られています。著書「秋田の生涯教育」のなかの一章「学び方を学ぶ」で、小畑氏は次のように述べています。「学校では、知識そのものよりも、認識のし方や判断のし方を身につけさせて欲しい。いわゆる「学び方を学ぶ」ことで、生涯学習していくのに必要な能力や態度を養ってほしいのです。」と記されています。このような小畑氏の思いが、この碑文にも込められているように感じます。

大潟キャンパスは今年度創立50周年を迎えました。記念式典などいくつかの行事が行われ、式典の講演会では、4名の卒業生が、大潟キャンパスの思い出などを話されました。講演された全ての皆さんが「大潟キャンパスでの学びと生活が私を作ってくれた」と述べられました。(50周年の特設ページが本学HPにあります。卒業生メッセージのコーナーなどもありますので、是非ご覧ください)アグリビジネス学科が開設されたのが2006年(平成18年)ですから、1期生の皆さんであれば30歳代の半ばですね。今春に卒業した皆さんは、社会での初年度目の生活ですね。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

秋田県立大学と大潟キャンパスで過ごした皆さまが、日々を元気にそして生き生きと過ごされることをお祈りします。そして皆さまが、日々の生活やお仕事などを通じて、お住まいの地域・日本、そして世界を支えたいものとしてくださることを願っております。

5期生の宇佐美早紀と申します。今回、同窓新聞に掲載して頂く貴重な機会を得ましたので、近況等、報告します。大学時代を振り返ると、出荷作業のアルバイトやサークル活動等、様々な方との出会いや考え方について学ぶ貴重な経験でした。園芸作経営プロジェクト(現先進園芸技術開発プロジェクト)を専攻し、吉田先生と「イチゴの安定生産

2期生の佐野鷹矢です。清新寮の寮長や竿燈会をやっていました。皆さんお元気でしょうか。私はいかいい妻と娘ができた家族が増えました。大学卒業から体重も10kgほど増えました。元気でいます。

5期 園芸作経営プロジェクト 宇佐美 早紀

## 同窓生からの近況報告

今回は園芸プロジェクトとビジネスプロの卒業生に近況報告をしていただきました。

卒業後は新潟県の運送会社に入社しました。トラックの運転はほとんどせず、営業、現場作業、現場指揮、事務作業を行っていてその中の一部を説明します。それは精密機械の解体・搬出・輸送・搬入・設置という仕事です。簡単に言いますと工場から工場へのお引越です。機械の重量は数tクラスや数百kgと様々ですが、ほとんどが高額で繊細なため、それにあつた運搬機材を使用し慎重に作業を行います。現場ごとに作業方法が異なることがあり、大変ですがやりがいをもつて励んでいます。

酒井先生からこのお話を頂いたときに、「君のユーモアあふれる文章力で…」と言われ、なんでこの人ハードル上げるのだろうと思ひ、二つ返事で引き受けました。つたない文章ですがお付き合いいただきありがとうございます。最後に添削していただきました大恩師の酒井先生、とてもかわいい妻に感謝申し上げます。(※酒井注:文中の「かわいい妻」は、佐野さんと同期で同プロジェクトの小松(旧姓)明美さんです。)

4年間、普及指導員として、各関係機関と野菜の技術指導や試験場担当者や収穫機械の実証試験等を行いました。現在5年目になり、農林行政の実務による経営安定所得対策に係る交付事務や米の取引に関する法律事務等を担当しています。普及指導や農林行政の実務をする中で、プロジェクトで学んだ「目標達成に向けて計画を立案し、実行に移し、結果を検証し、次に繋げていくこと」の考えと経験はこの先も重要な糧となります。

卒業後は、秋田県内の農業資材を扱う民間企業に入社しましたが、働く中で、秋田県全体の生産者が丹精込めて作った農産物を県内外の方に届けるための橋渡しをしたいと考え、秋田県庁に入庁しました。入庁後の

酒井先生からこのお話を頂いたときに、「君のユーモアあふれる文章力で…」と言われ、なんでこの人ハードル上げるのだろうと思ひ、二つ返事で引き受けました。つたない文章ですがお付き合いいただきありがとうございます。最後に添削していただきました大恩師の酒井先生、とてもかわいい妻に感謝申し上げます。(※酒井注:文中の「かわいい妻」は、佐野さんと同期で同プロジェクトの小松(旧姓)明美さんです。)

2期生の佐野鷹矢です。清新寮の寮長や竿燈会をやっていました。皆さんお元気でしょうか。私はいかいい妻と娘ができた家族が増えました。大学卒業から体重も10kgほど増えました。元気でいます。

5期生の宇佐美早紀と申します。今回、同窓新聞に掲載して頂く貴重な機会を得ましたので、近況等、報告します。大学時代を振り返ると、出荷作業のアルバイトやサークル活動等、様々な方との出会いや考え方について学ぶ貴重な経験でした。園芸作経営プロジェクト(現先進園芸技術開発プロジェクト)を専攻し、吉田先生と「イチゴの安定生産

卒業後は、秋田県内の農業資材を扱う民間企業に入社しましたが、働く中で、秋田県全体の生産者が丹精込めて作った農産物を県内外の方に届けるための橋渡しをしたいと考え、秋田県庁に入庁しました。入庁後の



## 大潟キャンパス50周年記念式典 および祝賀会が挙行了されました

令和5年11月3日、ホテルサンルーラル大潟において、大潟キャンパス50周年記念式典および祝賀会が盛大に挙行了されました。当日は、来賓の皆様のご臨席を賜るとともに、卒業生をはじめ教職員や在学生など約90名を超える関係者が集い、50年の歴史を懐古しながら大きな節目を祝いました。



▲大潟キャンパス50周年記念について本学HPをご覧ください



# 各プロジェクトの近況

## 先進作物生産技術開発プロジェクト (旧大規模農業経営プロジェクト)

先進作物生産技術開発プロジェクト(作物プロ)の近況を報告します。作物プロではアグリイノベーション教育研究センター所属でセンター長をなさっていた西村教授が2023年3月末をもって退職されました。今年度(2023年度)4月以降もひきつづき特任教授としてセンター長代理をされています。一方、露崎教授は学科長を今年度からなさっておられます。また、作物学・雑草学研究室に新しく助教の先生が2024年4月から着任するのではないかと噂がちらほら出てきました。

今年度はグテレスさんの「Polling」発言があったようにとても暑い夏でした。秋田は竿燈が終われば秋になるお国柄ですが、今年度はお盆を過ぎて暑さが衰えず、雨も降りませんでした。おかげでお米の品質が白未熟米の多発でとても悪く、1等米の比率が62.6%と報道されていました。学生さんは最近あまり多くなく、1学年6〜8人です。来年度の定員は5〜9人の3年生あたりは5人かもしれません。しかし再来年度には教員数もふえるので、気温と一緒に学生の人数も上がっていくのかなと期待しております。

永澤 信洋 記

## 先進園芸技術開発プロジェクト (旧園芸作経営プロジェクト)

同窓生の皆さん、ご無沙汰しております。先進園芸技術開発プロジェクト(園芸プロ)の吉田康徳です。最近、園芸プロ卒業生の活躍を聞くことも多く、いつも頼もしく思っております。園芸プロの近況を報告すると、規模は変更しましたが、特徴であるプロジェクト活動では、いまま生産(販売活動は健在で、花苗販売、市場出荷および松風祭などで販売も行っていきます。活動時は、いまま園芸プロの伝統である4年生が3年生の活動を支援し、3年生も4年生の卒論を手伝い互いに高め合う関係も健

在です。近年は、大学院進学者も増え、院生から質の高い指導も行われています。研究活動も同様で、ゼミでの活動計画、報告会準備および卒論発表なども活発に行われ、院生の学会報告も増えていきます。進路は公務員、自営および民間企業など多様な分野に及んでいます。今後も園芸プロの仲間が協力して園芸振興を地道に推し進めていきます。なお、園芸プロのHPでは、積極的に活動記録をアップしております。時間のあるときにでも、頼もしい先輩達の活躍をご覧ください。

吉田 康徳 記

## 家畜資源利用推進プロジェクト (旧家畜資源循環農業経営プロジェクト)

今年度は佐藤勝祥が担当いたします。2023年度より新たに山中麻帆助教(飼料機能科学、詳しくは新任教員紹介欄をご覧ください)が着任され、今年度の畜産プロジェクトは教員4名(横尾先生、渡邊先生(AIC)、山中先生、佐藤)と3年生6名、4年生7名、大学院生(修士)2名で活動してきました。大学院生がいる状況が定着し、研究のレベルも一層向上しています。また、みなさんご存知の通り、2022年の火災のため牛舎が焼失してしまいました。卒業生の皆様からも心配と激励のメッセージを多数いただきました。

佐藤 勝祥 記

## 次世代農業基盤創成プロジェクト (旧生産環境プロジェクト)

今年度の次世代農業基盤創成プロジェクトは、増本近藤正・永吉武志両准教授の3名体制で運営しています。現在所属する学部生・院生は、博士後期3年1名(社会人)、修士2年1名、同1年2名、4年9名、3年5名です。4年生の進路内訳は、本学大学院1名、国家公務員2名、地方公務員6名、民間1名の内定結果となっています。また、D3の1名は学位(農学(博士))を取得して秋田県に復帰予定で、M2の1名は後期課程に進学します。基盤プロジェクトは、技術・研究者名簿が毎年発行されますが、その中の出身校情報には「秋田県立大」「秋田農短大」卒が増え続け喜びに堪えません。卒業生の皆様のご活躍に改めて感謝申し上げます。

増本 隆夫 記

## 地域ビジネス革新プロジェクト (旧アグリビジネスマネジメントプロジェクト)

今年度は重岡がプロジェクト近況報告します。2022年度から、酒井先生、林先生、末永先生と私の4人体制でプロジェクト運営しています。今年度の学生は3年生が7名、4年生が6名の合計13名で日々研鑽しています。

4年生は目下卒業論文の最終段階で苦闘中ですが、テーマは6次産業に取り組み事業体の構造分析、農工商連携による農業振興の現状、伝統工芸品のマーケティング戦略、鳥獣害対策における個人対応の実態、富山県におけるふるさと納税の現状と課題、大学生の就職

先選択における地元志向の影響など、このプロジェクトらしく多様性に富んでいます。それだけに教員も大変です。3年生のプロジェクト活動は、男鹿市の漁業集落の加茂青砂地区を対象に地域の社会実態や漁業の現状について、住民、漁協、市役者へのヒアリング調査、集落点検および竹籠あみ・郷土料理体験ワークショップなど真摯に、かつにぎやかに取り組み、地元の方々にも大いに歓迎されました。プロジェクトは益々熱気を帯びてきていますので、先輩の皆さんご心配なく。

重岡 徹 記

## 政策・経営マネジメントプロジェクト (旧農業政策研究プロジェクト)

今年度の政策・経営マネジメントプロジェクトは、3年生7名、4年生8名、大学院生6名、教員4名、あわせて25名で活動しています。教員は、鶴川先生がご退職され、2023年9月に名誉教授となられました。後任の農業経営担当として、上田先生が教授となられ、また農業政策担当として新たに濱村准教授をお迎えしました。

新型コロナウイルスが5類に移行したこと、今年度のゼミはすべて対面で行っています。3年生は、輪読や統計演習のほか、現地調査として大湯村で農家調査を行いました。夏期合宿は岩手県に足を延ばし、

湯田牛乳公社といわて生協でお話を伺うとともに、小さい農産ではグループに分かれて従業員への就業意識を調査しました。4年生は、就職先もほぼ固まり、現在卒論に急ピッチで取り組んでいるところです。大学院生は、各自、修論に向けた研究活動に邁進し、学会報告や論文投稿を活発に行っています。

今年度は、大学院生がTAとして、3年生のゼミ活動に参加しました。また、大学院生による卒論の指導・支援もなされました。次年度も、4年生を含めて、学年間の連携を深めていければと思います。

岡田 直樹 記

## 新任教員紹介

この1年間に大湯キャンパスに着任された先生の紹介欄です。

### 濱村 寿史 先生

2023年4月に鶴川先生と入れ替わりで着任しました濱村寿史と申します。政策経営マネジメントプロジェクトに所属し、農業政策学II等を担当しています。前職は北海道の農業試験場職員で、近年は主に酪農経営を対象とした研究に取り組みしていました。現在は秋田県の水田作経営や園芸作経営も対象に加え、実態調査・経営分析に基づき、持続的な農業経営・農業の在り方について解明していきたいと考えています。

### 山中 麻帆 先生

2023年4月に伊藤謙先生の後任として、アグリビジネス学科家畜資源利用推進プロジェクトに着任しました山中麻帆と申します。専門分野は飼料機能科学、動物管理理学、主な担当科目は畜産学概論、畜産資源循環利用学等です。地域における食品製造副産物や農場残さ等の未利用・低利用資源の利活用について研究しています。

(※編集部注：後任の順番は、江本先生→小池先生→伊藤謙先生→山中先生です。)

## お知らせ - 拡散のお願い -

アグリビジネス学科同窓新聞は第4号からはWeb掲載のみとなっています。同窓の仲間たちに「同窓新聞をWebで閲覧すること」を拡散してください。

アクセス方法「秋田県立大学HP→生物資源科学部→アグリビジネス学科→キャリア・就職→同窓新聞」。

なお、印刷された同窓新聞の配達を希望される方は、kanda@akita-pu.ac.jpまでご連絡ください。

〈次号は令和7(2025)年1月頃にWeb公開予定です〉